

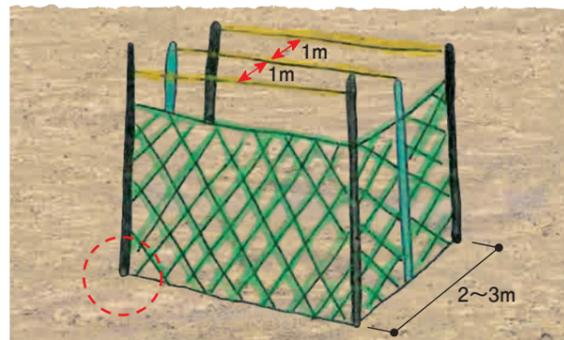
今月は
鳥獣害対策



丹精込めて育てた作物を最後の最後に野生鳥獣に食べられてしまわないよう、対策をすることが大切です。周辺に潜む動物の特徴や対策のポイントをご紹介します。(今回は、イノシシ、サル、シカの対策は省きます。)

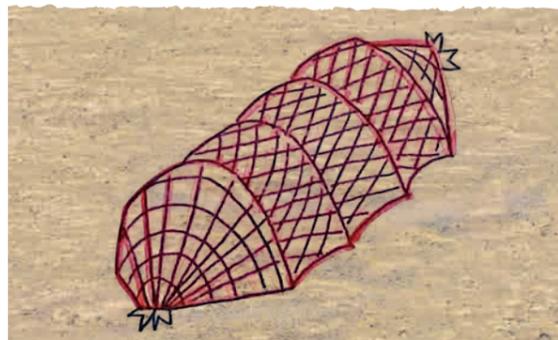
3 防鳥網の張り方のポイント

防鳥網とテグスで畑を囲む場合



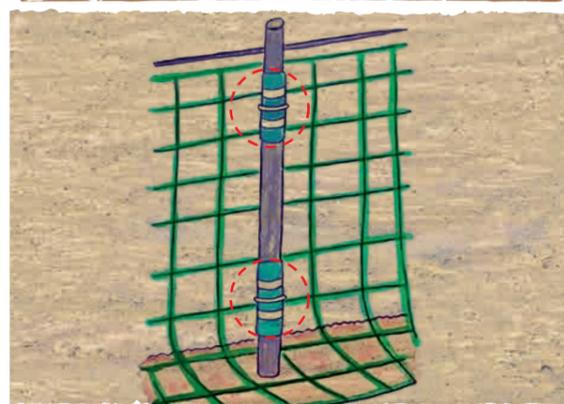
支柱は30cm程度地面に打ち込み、テグスは1m間隔で張ります。支柱と支柱の間にテグスを張る場合は、ダンポールを使うと良いでしょう。作業に支障の無い高さに張りましょう。ネットごしに食害されないよう、作物から離して設置します。

トンネル用支柱で囲む場合



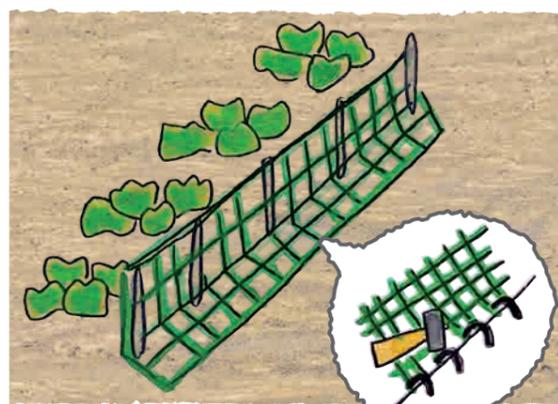
地際の際間からも入られないように隙間を無くしましょう。作物がネットに絡まないよう余裕のある大きさで設置します。

パッカーと結束バンドで固定



ネットは地面から150cm程度の高さを確保してください。補強と防風対策を兼ねて、パッカーの上から結束バンドで固定すると良いでしょう。

4 防獣ネットの張り方



支柱は1~1.5m間隔で設置します。潜り込み防止のために、30cmくらい裾をたらし、杭などで固定します。

⚠️ 注意

カラスは防獣ネットにもとまることができるので、カラス対策も同時に行う場合は、テグスや、防鳥ネットを併用しましょう。

改善点

支柱の間隔が広くネットにたるみがあり、そこから侵入されやすくなります。動物に味を覚えられない前(収穫時期より前)から設置しておきましょう。

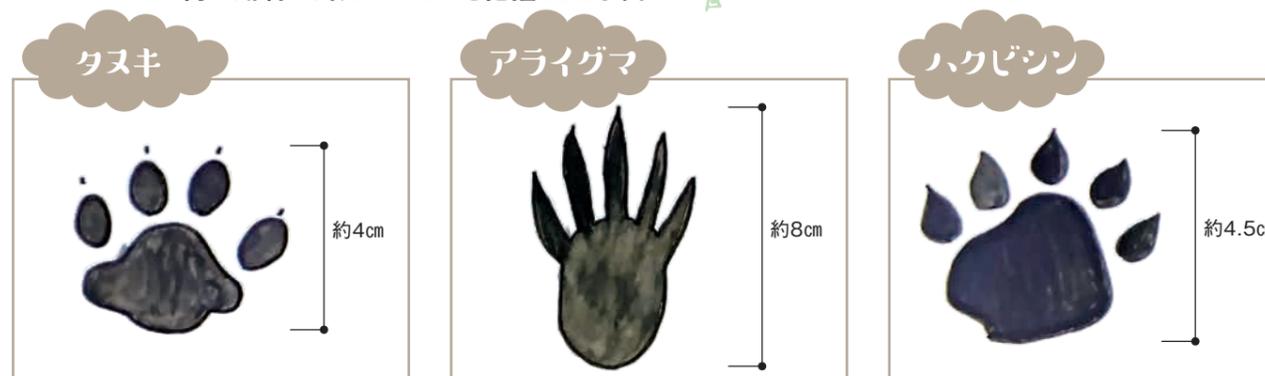
トウモロコシ畑の例

良い点

防獣ネットの裾を深く埋めてあるので、潜り込み防止になっています。

まずは、畑についた足跡を元に何の動物が周辺にいるかを把握しましょう。

1 動物の足跡



クヌキ
4本指。
足跡は梅の花のような形をしている

アライグマ
5本指。
手のひらと指先の跡が密着している

ハクビシン
5本指。
後ろ足のほうが大きい

2 害獣の特徴と対策

動物の特徴を把握し、適切な対策を行いましょう。

害獣	特徴	対策
カラス	目的地周辺に着地してから侵入する。(目的地に直接着地はしない)	防鳥網、テグス
ハクビシン	雑食性。ジャンプ力約120cm。8cmの正方形をすり抜ける。木登りが得意。防鳥網は食い破る。	電気柵、防獣ネット
アライグマ	雑食性。木登りが得意。	電気柵、防獣ネット
タヌキ	雑食性。何でも食べる。防獣ネットにたるみがあると体重をかけて乗り越える。	電気柵、防獣ネット